

2026(令和 8)年度 高等学校入試

結果分析と学習のアドバイス



雲雀丘学園高等学校

目 次

■2026(令和8)年度 高等学校入試 (A 日程)

国 語

社 会

数 学

理 科

英 語

■2026(令和8)年度 高等学校入試 (A 日程)

国 語

■全体講評

大問一【評論】鷺田清一『じぶん・この不思議な存在』から出題。

アイデンティティは固定的な自己像ではなく、他者との関係の中で紡ぎ直され続ける物語だと述べられる。人は役割や属性の断片をつなぎ合わせて自分を語るが、一つの物語に固執すると不安や硬直を生む。過去の実績に縛られた生き方や「同一であらねばならない」という強迫観念は、変化の可能性を閉ざすものでもある。むしろ複数のアイデンティティの段階を行き来し、関係の中で新たに語り直す柔軟さこそが、人生を豊かにするという内容。

大問二【小説】草野たき『リリース』から出題。

明良はバスケットを辞めようとするが、真野は理由を尋ね、明良が小杉への特別な思いを隠していたこともすでに気づいていたと明かす。さらに真野は、自分が部活に居場所を見いだせたのは明良たちのおかげだと語り、チームへの恩を告白する。弱いが温かい仲間を支えられてきた過去を思い出した明良は、真野の「待ってるから」という言葉を受け止めつつも返事ができず、ただ見送るのだった。

今年度は漢字の出題数を減らし、やや難度の高いものを選んだ。全体的な正答率は 70%弱とまずまずだったが「輪郭」や「融通」など似たような漢字を区別する問題は正答率が低かった。

選択問題について、どちらの問題にも共通して見られたのが傍線部周辺の言葉だけを意識してしまい、主語述語の関係がおかしかったり肯定否定が本文内容と全く逆だったりする選択肢を選んでいった。

記述問題に関しては、漢字を書く機会が減ったこともあってか、誤字脱字の多さが目立った。本文から書き写す文字の書き間違いが例年より多かったように思われる。また言い換え問題や理由説明問題に対して、本文における比喻表現をそのまま書き写しただけの解答も散見された。

■出題主旨

大問一【評論】

「自己とは何か」を、固定的・単線的なものではなく、複数の物語として構築される動的なものとして捉える筆者の主張を理解させ、その論理展開を読み取る力を問う。あわせて、人生観・価値観の相対化や、他者との関係の中で自己が形成されるという視点を読み解く力を評価する。多様性が尊重される現代だからこそ、入試問題として読むだけではなく今後の生活に活かしてもらいたい。

大問二【小説】

弱小チームでの仲間関係を通して描かれる、主人公の葛藤・成長・自己理解の変化を読み取り、人物の心情や因果関係を正確に把握する読解力を評価する。特に、行動の背景にある心理や、過去の経験が現在の選択にどう影響するかを読み解く力を問う。

■対策への助言

「文章を丸暗記して解く」のではなく、「筆者が何を言いたいのか」をつかむ姿勢が大事。文章全体のテーマを意識して読み、「軸」をつかむことで読解力がぐんとアップします。

設問を解くときは、次の三つを意識すると安定します。「言葉の意味は、必ず前後の文脈で判断すること。」とくに本文中の語句の言い換え問題は、周囲の説明を丁寧に読むと答えが見えてきます。「筆者の主張と例の関係をつかむこと。」例は必ず「筆者の言いたいことを補強するため」に出てきます。例だけを読んで判断しないようにしましょう。「選択肢は“本文に書いてあることと一致するか”で選ぶこと。」自分の感覚ではなく、文章の内容に忠実に。

■問題分析

【大問一 評論】

問十三 ——線部⑩「じぶんはだれか」とありますが、この問いに答えるために必要なことは何であると筆者は考えていますか。解答欄に合うように五十字以内で説明しなさい。(句読点、記号も字数に含めます。)

【解説】筆者は、自分の内側に固定した同一性を求める態度から離れ、他者との関係の中で与えられる多様なアイデンティティに目を向ける必要があると述べている。本文では、アイデンティティは「自分に語って聞かせる物語」であり、人生の中で何度も破綻し、そのたびに語り直されるものだと言われる。したがって、単一の物語や一貫した自己像に固執すると不安が生じる。むしろ、他者との関係が設定してくれる複数のステージを受け入れ、柔軟に自己を語り直す姿勢こそが、「じぶんはだれか」を考えるうえで不可欠だと筆者は考えている。

【解答例】内面にある固定的な同一性だけを基準にせず、他者との関係のなかで立ちあがる複数の自己像に目を向ける(ということ。)

【大問二 小説】

問六 ——線部⑥「すでに手遅れでしたということ」とありますが、これを次のように説明しました。()に当てはまることばを考えて二十字以内で答えなさい。(句読点、記号も字数に含めます。)

里中高校のバスケットボール部に入ったとき、()ということ。

【解説】——線部の「手遅れ」は、明良が中学時代に弱い環境で過ごしたため、強豪校の選手との差が大きく開いてしまったことを指す。里中高校入学時には、その差を埋めるには遅すぎるのではという不安が生まれていたため、この表現が使われている。この不安を具体的に説明する表現を求めた。

【解答例】里中高校のバスケットボール部に入ったとき、(実力差がありすぎて試合に出られない)ということ。

■2026(令和8)年度 高等学校入試 (A 日程)

社 会

令和 8 (2026) 年度 高等学校入学試験 A 日程 分析 社会科

■全体講評

地理・歴史・公民の 3 分野で各 2 題ずつ、計 6 題出題しました。各分野の基本的な知識・技能の定着度を問うことを念頭に置きつつ、思考問題・資料問題を通してその活用能力も問いました。

全体的に、資料の読み取りを伴う問題は正答率が高かったものの、用語を書いて答える問題で、不正確な答案がたくさん見られました。正確に書けるようにしましょう。特に、概念を示す漢字の用語（例えば、本年度であれば「栽培漁業」「殖産興業」）は、その漢字の意味自体が、その概念の意味に直結するものも多いです。ただ単に漢字を「丸暗記」するのではなく、漢字の意味をよく考え、そして、その概念の理解に結び付けて覚えることが大切です。

■出題趣旨・講評

問	分 野	出 題 趣 旨 ・ 講 評
1	地理的分野 (世界地理)	大問 2（日本地理）の成果は良好でしたが、それに比べて大問 1（世界地理）は、時差や雨温図などの基本的な問題にあっても、正答率が低かったです。なお、大問 1・2 とも、用語を書きとる問題で不正確な記述が非常に多かったです。
2	地理的分野 (日本地理)	
3	歴史的分野 (古代～近代)	頻出語句の問題や、グラフの読み取り問題の正答率は良好でした。一方、語句問題で不正確さが見られたほか、歴史的な理解が不十分と思われる答案が散見されました。単に用語さえ覚えればよいのではなく、歴史的な理解を持つことが大切です。
4	歴史的分野 (近現代)	
5	公民的分野 (政治)	資料の読み取り問題では良好な成果が見られました。また、社会保障などニュースで扱われる話題に関してはよく理解できていました。一方で憲法の理解に関する知識問題の正答率の低さが目立ちました。
6	公民的分野 (経済)	

■対策への助言

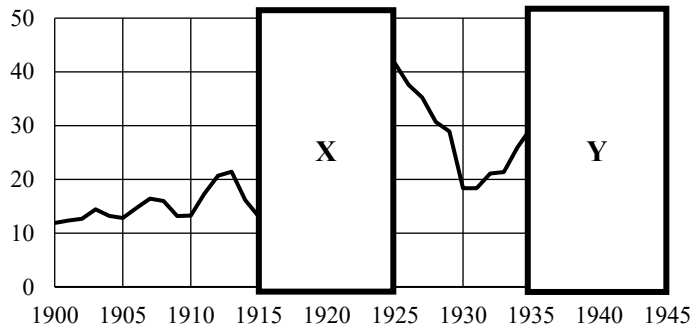
- 用語を正確に書けるように練習しましょう。ただし、特に概念的な用語は、丸暗記をするのではなく、その意味をよく考えて覚えるようにしましょう。
- 単なる用語暗記にとどまらず、地理的・歴史的・公民的事象の理解に努めましょう。そうすることで、基礎的な知識を組み合わせることで解く問題、あるいは思考力が求められる問題にも対応しやすくなるかと思います。
- 時事的な内容にも関心を持ち、ニュースや新聞などに積極的に触れるようにしましょう。
- 全体的に問題量が多いので、解ける分野・問題から確実に解いていきましょう。

■問題分析

大問 4 (3) [歴史的分野] (※紙面の都合上、実際の試験問題とはレイアウトが若干異なります)

下線部(c)に関連して、次の折れ線グラフは、1900～45年の米価の推移を示したものです。このグラフ中の期間 **X** (1915～25年) に適するグラフ a または b と、期間 **Y** (1935～45年) に適するグラフ c または d との組み合わせとして適当なものを、後の **ア～エ** のうちから 1 つ選び、記号で答えなさい。なお、縦線はいずれも 5 年ごとの区切りを示します。

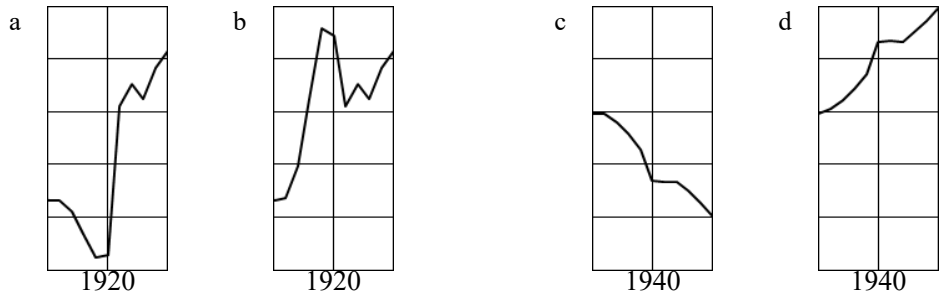
米価の推移 (1石あたりの価格(円))



(日本銀行統計局『明治以降本邦主要経済統計』をもとに作成)

【 **X** に適するグラフ】

【 **Y** に適するグラフ】



ア a ・ c **イ** a ・ d **ウ** b ・ c **エ** b ・ d

解答・解説

正解は**エ**です。(**X** には b が、 **Y** には d が適する)

グラフ a・b は、1915～20年の増減が大きく異なり、そこに注目します。この期間には米騒動(1918年)があり、この背景はシベリア出兵を見越した米の買い占めによる米価高騰です。よって、X には、1910年代に米価が高騰する b が適します。

グラフ c・d は、1935年以降の増減が逆になっています。この時期には日中戦争(1937～45年)、太平洋戦争(1941～45年)がありました。この間、国内では日用品や食糧の生産量も減少します。そうした中で米の配給制も始まります(1941年)。戦争中の食糧不足により、米価も高騰すると考えられるため、Y には、d が適します。

■2026(令和8)年度 高等学校入試 (A 日程)

数 学

■全体講評

計算力、関数、平面図形、空間図形、確率に関して高校での学習に必要な知識や考え方が定着しているかを問う問題を中心に構成しています。難易度は、基本的な知識を確認する問題から発展的な複合問題、思考力を必要とする問題まで幅広く出題しました。

計算問題や小問集合、各大問の(1)や(2)の正答率は概ね高い傾向があった一方で、確率の問題は問題の状況を十分に理解できていない答案も散見されました。「2つのさいころ」という状況から条件を満たす具体例を書き出してみることで、問題の見通しが良くなったのではないかと思います。また、平面図形、空間図形における(3)の問題は等積変形やひもかけに関する問題で、問題を多角的な見方で捉えることが重要でした。

■問題構成

大問	内容
1	基本計算
2	小問集合
3	関数
4	空間図形
5	平面図形
6	確率（思考力）

■所感

大問	平均正答率	特筆すべきコメント
1	72.7	全体的にはよくできていた (2)分子・分母に文字を含む乗除の計算は正答率 63.7%とやや低い
2	59.8	(2)6の倍数となるように□を埋める問題は正答率 40.3%とやや低い (5)データの四分位範囲に関する問題は正答率 16.5%と顕著に低い
3	63.7	(1)(2)でしっかり点が取れているかが分かれ目 (3)等積変形などを含む応用問題は正答率 17.4%
4	63.2	(1)(2)でしっかり点が取れているかが分かれ目 (3)立体の周囲のひもかけ問題は正答率 28.7%
5	46.8	全大問の中では最も正答率が低い分野 自分で線を書き加えたり見方を変える思考力が必要
6	47.9	問題状況を正しく理解して書き出すことができたかどうか (1)の正答率も 69%と他の(1)に比べると低い
全体(R8)	59.6	専願 ave : 49.1%, 併願 ave : 62.0% 全体としてはバランスの取れた問題だった一方で、記号や数字の判別が難しかったり、雑に書いている答案も複数見受けられた
全体(R7)	58.7	

■2026(令和8)年度 高等学校入試 (A 日程)

理 科

■全体講評

理科の4分野(地学, 物理, 生物, 化学)のバランスを考えて, 各分野から1題ずつ出題しました。分野ごとの配点は均等にし, 偏りがないよう配慮しています。今年度は生物分野の得点率が高く, 物理, 化学・地学の得点率に大きな差はありませんでした。

理科の基本的な知識を問う問題に加えて, 問題文や表, グラフなどをしっかりと読み取り, 物事の本質を理解して, 解答を導く力があるかどうかをみる問題を出題しています。用語を正確に書けた受験生が少なかった印象が強いです。

差が付いたのは化学分野の分類と物理分野の力の図示です。理科において, 生物や化学物質などを系統的に分類することはとても重要です。知識を整理し, 共通の特徴を理解し, 予測を立てる手助けになります。これにより, 理解が深まり, 学習が効率的に進行します。一方, 物体の運動を理解するために, 力の図示が非常に重要です。物体の運動の予測や分析の基盤となりますので, 力を矢印で示すことができるような練習が必要です。

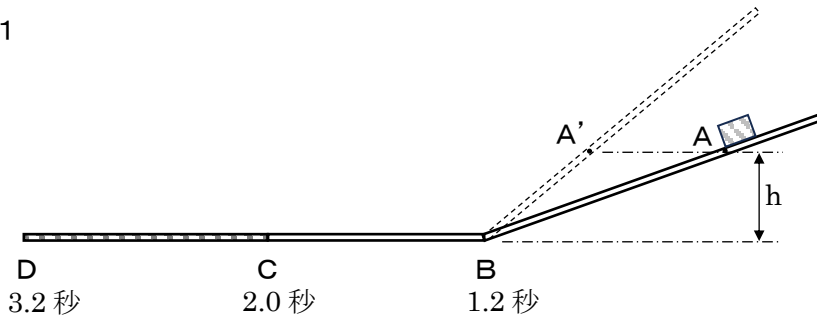
■出題趣旨・講評

問題 番号	項 目	設 問
1	物質の分類とアロマ オイルの精製【化 学】	分類では混合物, 化合物, 単体の区別ができていた受験生が少ない点が目立ちました。アロマオイルの精製は, 教科書に参考程度でしか記載がないものの, 装置図や文章から考察し, しっかりと解答できていた受験生は多かった印象です。化学分野の得点率は昨年より若干低めでした。
2	生態系のバランス 【生物】	「食物連鎖」の鎖や「生態系」の態など漢字の間違いが目につきました。分解者についても菌類や細菌類の知識が曖昧のように感じました。
3	惑星と惑星運動 【地学】	(1)の用語問題は地球型惑星と木星型惑星の質量の大きさの正答率が低かったことと用語の漢字ミスや重複ミスが多かったです。内惑星の金星の動きを計算問題として誘導形式で出題しましたが, 最後の会合周期の問題が難しかったみたいです。
4	斜面を降りる物体の 運動に関する問題 【物理】	基本的な内容では, 力の名称はほぼ正解していましたが, 力の図示に課題が見られました。グラフの読み取りや運動を考察することなど, 実感を伴った理解が不十分で, 学習したことを活用できていないようです。

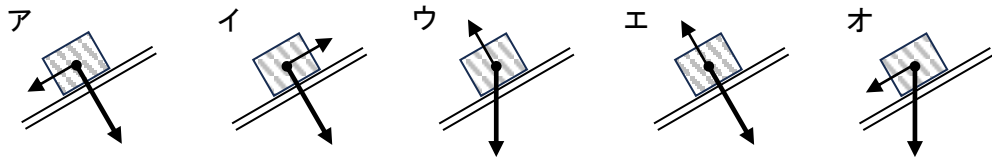
■問題分析

4 【物理分野】

図 1



- (1) 斜面を滑り落ちているとき、物体にはたらいている2つの力を表す図として最も適切なものを、次のア～オから1つ選び、記号で答えなさい。ただし、図は力の作用点が物体の中心であるとして表しています。



- (5) A' から物体をはなし、物体がBを通過するまでの時間は1.0秒でした。Cを通過するまでの時間として、最も適切なものを、次のア～オから1つ選び、記号で答えなさい。

ア 1.4 秒 イ 1.6 秒 ウ 1.8 秒 エ 1.9 秒 オ 2.0 秒

- (1) 斜面を物体が滑り落ちるとき、斜面にそった方向に力のはたらいていると考えた受験者が多くいたようです。アまたはオを選択した誤答が大半を占めました。摩擦のない斜面を運動する物体にはたらく力は重力と垂直抗力の2つしかありません。重力は地球の中心向きにはたらき、垂直抗力は面に対して垂直にはたらきます。この2つの力を合成した力が斜面にそった方向の力となり、物体は斜面を滑り落ちていきます。
- (8) AとA'は同じ高さですので、Bに到達したときの速さは同じになります。このため、B-C間の移動にかかる時間は同じとなります。

■対策への助言

問題集や過去問を解いて、勉強していると思いますが、ただ解くだけでなく、事物・現象を本質的に理解できているかを確認しながら学習を進めて下さい。また、知識をつけるだけでなく、問題文の読み取りや図表から読取る力も必要となります。与えられた情報をより正確に、確実に把握する力をつけていきましょう。

■2026(令和8)年度 高等学校入試 (A 日程)

英 語

■全体講評

長文読解問題 2 題、客観問題 3 題、リスニング 1 題と例年同様の問題構成である。比較的分量が多い長文 2 題（合計 約 1760 語）を約 40 分で解答する（リスニング放送時間約 8 分）内容であったが、平均 69.5 点と高く、長文の正答率は 2 題とも 60% 近かった。正確な英語の知識・理解と読解力・情報検索力の両方を必要とする問題が主流であった。

■問題概要

大問	項目	設問形式
1	長文読解	空所補充、整序英作文、内容把握、英文和訳
2	長文読解	空所補充、整序英作文、内容把握
3	文法・表現	日本語が提示されない英文空所の語選択
4	文法・表現	日本語で背景が提示された内容の英文空所の語句選択
5	文法・表現	日本語が提示されない英文空所の語選択
6	リスニング	放送される英文と質問を聴いて内容選択

■各項目別の出題主旨等

大問	項目	出題主旨
1	長文読解	「インターネット上の誤情報」に関する論説文を読み解く問題。内容理解問題や知識と文脈の融合問題など幅広い出題。
2	長文読解	エドガー・アラン・ポー作 “William Wilson” を題材に 2 人の生徒が感想を共有する、小説と対話文を組み合わせた問題。比較的長い長文を読解し、大意を把握する要約力を問う問題を中心に。出題。
3	文法・表現	2 文 1 組の文が表す語を解答させる、説明文を理解するための文法力および語彙力を問う問題。
4	文法・表現	設定条件（気候変動を危惧する環境活動家に関する英文）のもとに提示される英文の空所補充問題。条件を踏まえて正しい時制などを選ぶ文法の知識が問われる問題。
5	文法・表現	2 文を比較し、類似した意味になるように適切な語句を補充する問題。
6	リスニング	訪日する外国人を対象に、日本の観光プランを複数推奨する内容。1 回約 3 分半の英文を聞き取り、与えられた設問に対する答えとして適切なものを選ぶ。放送は 2 回実施。

■問題分析

【1. 長文読解】

正答率は 59.9%。インターネット上の誤情報についての論説文。英文の難易度は平均的な中学3年生を対象にした内容としては高かったが、フェイクニュースという言葉や概念について受験生世代に広く知られていると思われ、よく理解して解答できていた印象である。

問2（正答率 79.1）、問6（正答率 87.3）などを見ると基本的な文法は十分理解しているようだが、問4の正答率が10%と想定外に低かった。形容詞と **enough to** を組み合わせる問題であり、通常レベルの難易度であると認識して出題したが、言い換えの根拠となる英文に引きずられ、よく考えないまま解答したと見られる誤答が多かった。長文をできるだけ速く読む能力は備えてきてはいるが、思考力を問う、やや応用的出題となると得点できない印象である。

【2. 長文読解】

正答率は 58.6%。アメリカ合衆国のミステリー作家、エドガー・アラン・ポーの作品についての対話文。英文のボリュームは比較的多かったが、難易度はそれほど高くなく、物語の展開や登場人物のキャラクターを掴むことができれば、問題数は大問が4つと少ないので十分得点できるかと思われる。問3の整序英作文は基本的な文法が問われるもの（正答率 73.3%）と、応用力が問われるもの（43.8%）で正答率が大きく異なった。問1について、適切な動詞を入れる問題について、同姓同名であるという趣旨の（**had**）**the same name** の正答率が14.7%と低く、英語ならではの表現が定着していない印象が伺えた。問4では本文の大意を掴む力を求めたが、平均正答率 72.1%と想定外に高く、読む量が多かったにも関わらず、内容の正確な把握が出来ていたと思われる。

【3. 文法・表現】

平均正答率 79.2%。中学3年間で学習する単語については十分習得出来ている。

【4. 文法・表現】

平均正答率 86.2%。与えられた条件に合わせ、空所補充による英作文をするという問題。条件からヒントを得て正答を導き出すことが概ね出来ていた。

【5. 文法・表現】

平均正答率 85.9%。正答率が高い一方で、一般動詞の過去形が正しく書けないなど初歩的なミスも散見された。

【6. リスニング】

設問と解答の選択肢は印刷されているため、選択肢をあらかじめ速読し、ある程度内容と質問を推測しておく必要がある。1回目の放送では英文全体を把握しながらも質問に関連する箇所を探し出し、2回目の放送では質問に対して必要な情報に絞って確認しなければならない。英文が読み上げられる時間は3分半と若干長く、集中力が求められる。正答率は 71.2%と高かった。

■対策への助言

長文読解では、基本的な文法・語彙を定着させながら、多様なテーマの読解演習が必要となる。語彙・文法などの知識や理解はもちろん、多くの英文に接し、英文を読むスタミナを養うことが何より大切である。速読や音読練習も読解力アップに欠かせない大切な手法である。

文法・表現問題では、基本的な文法・構造の理解・定着を目指しながら実践練習に取り組もう。定番の文法・構文以外の表現にも挑戦したり、スピーキング練習も同時に取り組もう。

リスニングでは事前に選択肢などの先読みをして類推する練習をしたり、質問に対して必要な情報を検索する練習をしよう。長文読解と同様に多様なテーマ・形式の実践練習も効果的だ。復習では放送原稿を使って聞き取れなかった表現、意味の分からない箇所、読解できなかった箇所などを確認しよう。何度も反復リスニングや音読練習をすることによって長文読解やスピーキングなどとの相乗効果が期待できる。